

全佛婦

No. 143

2026年夏号

7月10日発行



公益社団法人
全日本仏教婦人連盟

全佛婦143号

令和8年7月10日 発行日

編集委員 編集人

本多端子 発行人

発行所

公益社団法人 全日本仏教婦人連盟

〒151-0051

東京都渋谷区千駄ヶ谷

4-5-10-205

03-5772-0677 電話

<http://jbwf.jp> URL

info@jbwf.jp MAIL

本多良之師 表紙画

尼僧寺院として 千四百年

大本山善光寺大本願 法主 川名観恵

全日本仏教婦人連盟の皆様におかれましては、昭和二十九年の開設以来、仏教精神における慈悲の心を社会に幅広く貢献されていच्छやいますこと、心から敬意を表します。

大本山善光寺大本願は、善光寺の創建（六百四十二年）当初からその歴史を共にしてまいりました尼僧寺院でございます。皇極天皇の命により尊光上人（蘇我馬子の娘）を開山上人といたしまして、代々の大本願住職・尼公上人が善光寺上人としてその伝統を継承しております、法燈連綿として約千四百年の歴史を経て今日に至っております。昭和二十九年には浄土宗の七大本山の一つに加わりました。



御本尊の一光三尊阿弥陀如来様（善光寺如来）は、一つの光背の中に、中央に阿弥陀如来様、両脇に観世音菩薩様、勢至菩薩様が配置されており、「善光寺式阿弥陀三尊像」とも呼ばれております。御本尊様が安置される本堂は、国宝に指定されております。

善光寺には「お数珠頂戴」という儀式がありまして、毎日のお朝事などで住職が本堂を往復する際、参道に跪いて並ぶ参拝者お一人お一人の頭に、手に持ったお数珠で触れ功德をお授けするというものです。最近では多くの外国の方々も手を合わせて受けてくださいます。

また、善光寺では、数え年で七年に一度、御開帳が行われます。これは、お秘仏である御本尊様のお身代わりとして、同じお姿の前立本尊阿弥陀如来様を、普段安置しているご宝庫から本堂にお遷ししお参りいただく行事で、毎回七百万人近い方々が全国から訪れていただきます。

御開帳期間中に本堂前に建立する回向柱には、前立本尊阿弥陀如来様の右手に結ばれた金の糸から五色の紐、白い善の綱となって結ばれており、その柱に触れる方々にみ仏のお慈悲を伝えております。

来年の令和九年には、この御開帳が予定されております。期間は四月四日から六月十九日までの七十七日間です。皆様のお越しをお待ちしております。

全日本仏教婦人連盟の皆様には、修正

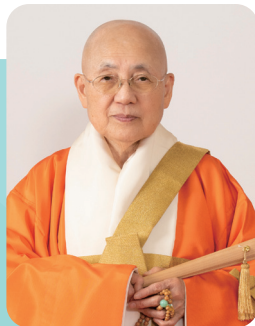
せていただいております。

歴代の尼公上人は何れも素晴らしい方々ばかりですが、中でも第百十七世誓圓尼公上人（伏見宮邦家親王第三王女萬喜宮様）は、明治六年四十八歳の頃、皇族還俗の政令が発せられ、廃仏毀釈の嵐の中で「身にまとった袈裟衣はとり得ようが、心につけた袈裟衣はとる方法がない。剃刀をもって剃った黒髪はのぼすことも出来ようが、心に剃った黒髪はどうしてのぼすことが出来ようか。」と仰り尼公上人としてとどまれ、寺院を護られた中興の祖でございます。

私が昨年までおりました東京青山の善光寺は、江戸時代の間、善光寺大本願の住職が九代にわたって青山の善光寺の住職を兼務されており、誓圓上人が兼務をされた最後の尼公上人でございます、私も以前より深いご縁を感じている方でございます。

善光寺大本願の法主は、善光寺の住職を、善光寺大勧進の貫主様とともに務めております。善光寺は、「一生に一度は参れ善光寺」「遠くとも一度は参れ善光寺」と言われるなど、無宗派の寺として毎年多くの善男善女の方々が訪れております。

会、仏婦大会のご案内状を全日本仏教尼僧法団にお送りくださいますことから、法要を勤めさせていただき、その後、懇親会まで参加し親しくさせていただきます。親会まで参加し親しくさせていただきます。お参りすること、心より感謝申し上げます。み仏の慈悲の心を社会へ、世界へと共に発信してまいりたいと存じます。会員皆様のご健勝を心より念じております。



川名観恵 略歴

生年月日	昭和15年1月20日
寺院	大本山善光寺大本願
略歴	
昭和22年	東京 青山善光寺入山
昭和38年	大正大学卒業
昭和58年	千葉 別願院住職就任
平成9年	東京 青山善光寺住職就任
令和7年	大本山善光寺大本願法主就任 善光寺住職就任
その他役職	全日本仏教尼僧法団理事 浄土宗吉水会顧問

問

今ここを

おいて

どこへ行くこうと

するのか

愛知専門尼僧堂・特別尼僧堂堂長

青山俊董 老師



青山俊董◎あおやましゅんどう

昭和8年、愛知県一宮市に生まれる。5歳の頃、長野県塩尻市の曹洞宗無量寺に入門。15歳で得度し、愛知専門尼僧堂に入り修行。その後、駒澤大学仏教学部、同大学院、曹洞宗教化研修所を経て、39年より愛知専門尼僧堂に勤務。51年、堂長に。59年より特別尼僧堂堂長および正法寺住職を兼ねる。現在、無量寺東堂も兼務。昭和54、62年、東西靈性交流の日本代表として訪欧、修道院生活を体験。昭和46、57年、平成23年インドを訪問。仏跡巡拝、並びにマザー・テレサの救済活動を体験。昭和59年、平成9、17年に訪米。アメリカ各地を巡回布教する。参禅指導、講演、執筆に活躍するほか、茶道、華道の教授としても禅の普及に努めている。

平成16年、女性では二人目の仏教伝道功労賞を受賞。21年、曹洞宗の僧階「大教師」に尼僧として初めて就任。明光寺（博多）僧堂師家。

第2講

天地宇宙の真理に気づく―「仏戒」について 「古道の発見者」

つぎに、「宗教」とは一体何なのか、「仏法」とは一体何なのかという、その原点について考えておきたいと思います。

また、運転手さんのお話です。

名古屋駅で乗ったタクシートの運転手さん、わたしの顔を穴が開くほどのぞき込んで、「坊主やってんですか」と聞いてきました。

その声には、何かこちらが悪いことをしているような、とがめだてるような厳しい響きを持っていました。それで思わず、

「坊主は職業じゃない。生きていく手だてではない。誰しものが、たつた一度の命を最高に生きたいと思う。その最高の生き方、最後の落ち着き場所を、求め求めて行き着いてこのような姿になっただけで、坊主は職業ではない」

わたしも厳しく答えました。そう

ないということのようです。

四十六億年を一年に換算したとき、四、五月に海に誕生した命、これが限らない進化を遂げて「人類」の命の姿をとってきたのは、十二月三十一日の夜の十時過ぎだそうです。つい一瞬間ですね。ですから、地球上におけるあらゆる命あるものの中で、人類はいちばんの新参者といえるわけです。その新参者の人類が地上に現れて、地球をダメにするようなことを今しているのではないかと思えてならないのですけれどもね。

その十二月三十一日の夜の十時過ぎに地上に現れた人類の歴史が、四十五万年。ケタが違います。その四十五万年の人類の歴史の中で、文化らしきものを持ったのは、ようやく一万年だそうです。

その一万年の中で「世界三大宗教」といわれる仏教が二千五百年、キリスト教が二千年、イスラム教が千四、五百年。ほんの一瞬間ですね。

地球という歴史を見ただけでも、一瞬前に、お釈迦さまとか、キリストさんという方がお出ましくださつて、少なくとも地球だけでも展望する。それを見て、天地はこうなつて

しましたら運転手さんは、

「ああ、そうですか。坊主は職業じゃないんですか。わたしは宗教が大嫌いです。宗教なんて人間がつくつたものでしょう。人間がつくつたものに、人間が縛られるという法はない」と、また言ってきました。そこでわたしは次のような話をしました。

宗教は人間がつくつたものではない。何もないとところからつくり出したならば、たとえお釈迦さまがどんなにご立派でも、キリストさんがどんなにご立派でも、二千年、二千五百年前という時代的制約から出ることはできないでしょう。ちなみに、キリスト教は約二千年、お釈迦さまは二千五百年。また、インドやイスラエルという地理的制約からも出ることはできないでしょう。

お釈迦さまやキリストさんが見つ

いるんだ、その中で人の命もこのように生かされている。だからこう生きていこうじゃないかと気づき、説きいだされた。ですから、教えの原点はお釈迦さまやキリストが、気づく気づかないにかかわらず行われている天地の姿、それが基本。それに気づいた、発見したのだ、ということとを忘れてはなりません。

要するに「目覚め」「気づき」です。ですから、お釈迦さまのことを増谷文雄先生は「古道の発見者」とおっしゃっている。

「古道」の「古」という字は、「十」に「口」と書きますね。「十」代「口」伝で相続されてきたことを「古」と呼ぶのだそうです。十代口伝、少なくとも五、六百年以上、七、八百年くらいは相続されてきたものというわけですね。

たとえば、どんなに大勢を動員して騒ぎ立てても、その教えが間違っていたら、百年以内に消えていく。少なくとも二千五百年相続されてきたというのは、間違いない教えの証拠です。

十代口伝で相続される、それを「古」と呼ぶ。ですから、「古」という言葉は、真理、間違いない教えという意味です。時と場所を

け出そうと出すまいと、気づこうと気づくまいとにかかわらず、行われている天地悠久の真理。いいですか、お釈迦さまやキリストさんが気づく気づかずにかかわらず行われている天地悠久の真理に、明らかに修行の眼で気づいただけ、発見しただけであつて、ないものをつくり出したわけではありません。

たとえば、天地悠久といつてもわかりませんので、小さく地球を考えてみましょう。地球の歴史が四十六億年だそうです。四十六億年を一年に換算すると、地球上に命が誕生したのは四、五月だそうですね。

ソマチットという微生物が海で生まれました。この海で微生物が誕生したという原点は、今も変わらず、陸に上がった動物たちは、お母さんのお腹の中に、海の条件を整えます。お母さんのお腹の中の羊水というのは、海水と同じ成分なんだそうです。命誕生の原点は、今日までも変わらず

超えて変わらぬ天地宇宙の真理、それを「古」という言葉で表す。増谷文雄先生は、お釈迦さまのことを「古道の発見者」とおっしゃっている。これも心に止めておきましょう。

その天地宇宙の真理、「古道」に気づいた人を古い聖、「古聖」と呼ぶ。それから、その教えを「古教」と呼ぶ。さらに、そういう天地宇宙の真理、そこにおける人の命のありようというものを本気で学ぼうとすることを、「稽古」という。

この頃、言葉も変わつてまいりまして、お茶の稽古、お花の稽古というように「稽古」という言葉が軽々しく使われておりますけれども、本来の「稽古」という意味は、稽首^{けいしゅ}＝頭を地にたたきつけて命がけで道を求めようとするることなのです。

道元さまは、『正法眼蔵』の中で、あちこちに「稽古の人よ」というふうに呼びかけておられる。「時と場所を超えて変わらぬ真理の道を命がけで求めようとする人よ」という呼びかけが、「稽古の人よ」という意味になつていることを忘れたくないと思います。

虚空蔵・勢至両菩薩

「ほとけさまのサイン」
編集・発行 天台宗出版室

浦井正明師：「阿弥陀さまはなぜ九ツもの印相を示しておられるのか。お不動さまはどうして怖い顔をして、剣などをお持ちなのか。本書はこうした疑問にお答えするために書いたものである。（中略）仏さまは本来拝まれるために造られるのである。いいかえれば、私たちが仏さまに何を願い、仏さまはそれにどう応えてくださるのかということなのである。」

著者略歴

【浦井正明（うらいしょうみょう）】

1937年（昭和12年）－2025年（令和7年）。天台宗僧侶。東叡山輪王寺門跡門主・寛永寺前貫首。慶應義塾大学文学部史学科卒業。東叡山現龍院前住職。寛永寺執事長、台東区教育委員会委員長、台東区文化財保護審議会委員等を歴任。『もうひとつの徳川物語 将軍家霊廟の謎』等著書多数。

うものです。こうしたことから、虚空蔵菩薩さまは学業成就を叶えて下さる仏さまとしても信仰されているのです。

じゅうさんまい
十三詣り

また、江戸時代の中頃からではないかと思われませんが、「十三詣り」という虚空蔵菩薩さまへの参詣が盛んに行われるようになりました。

この菩薩さまのご縁日は十三日なのですが、中でも三月十三日には、この年十三歳になった男女が、この虚空蔵菩薩さまおまいりすると、智慧を授かり、厄が除かれ、福德までいただけると考えられました。

俳句の方で、このおまいりのことを「智慧詣り」とか「智慧貴い」といって、春の季語にしているのはそうした理由によるのです。

なお、この菩薩さまは丑年と寅

年の一代守り本尊としても知られています。

阿弥陀さまと共に

勢至菩薩さまはあまり単独でお祀りされることのない菩薩さまです。

なんとといっても、皆さんがよくごんじなのは、観音さまと共に阿弥陀三尊さまとしてお祀りされているお姿でしょう。

そのお姿は、阿弥陀さまの向かって左手に、静かに合掌しておられるお姿で、阿弥陀さまの慈悲を表わす観音さまに對して、阿弥陀さまの智慧を表わしておられるのです。（図2）

勢至菩薩さまはサンスクリット語でマハー・ストハマー・ブラープタと申し上げ、意識すると大勢至又は得大勢ということになります。『観無量寿經』というお経の中には、

大きな智慧の光を以て、普く一切を照らし、私たちが地獄に墮ちることのないように、大きな力を添えて下さると説かれています。

また、別の箇所には、勢至さまを思い浮かべて心を寄せる人々は、どうしようもない犯罪を犯していたとしても、必ず阿弥陀さまの西方浄土に生まれると説かれています。勢至さまが、阿弥陀さまや観音さまと一緒に、私たちをお迎えに来て下さるのはこうしたわけなのです。

なお、勢至さまは、合掌の他に、観音さまと全く同じお姿に造像されることもあります。その場合は、観音さまが頭に阿弥陀さまのお像を戴いているのに対し、勢至さま水瓶を戴いていらつしやるので、すぐにわかります。

図2



図1

大仏師 山高龍雲作

ほとけ
さまの
サイン
Sign

天空と大地

虚空蔵とは、サンスクリット語のアーカーシャ・ガルバという言葉を意識したものです。

それは、あたかも、全く妨げるもののない広大無辺な虚空（天空）のように、限らない智慧と福德とを内に蔵して、おまいりする人々に、それを惜しみなく与えて下さることを意味しています。

わが国では、平安時代の初め頃までは、すべてのものを育む大地を司るお地蔵さまと、天空を司るこの虚空蔵菩薩さまを一對の仏さまとしてお祀りしていました。

ところで、『大集經』というお経の中には、この菩薩さまについて、こんなことが説かれています。

ある富豪が、貧しい人々に施しをして、それを自分自身の喜びとしているように、虚空蔵菩薩さまも、人々の願いを聞いて、仏の教え（智慧）を説き、本当の喜びを与える……と。

学業成就

虚空蔵菩薩さまのお姿はさまざま

ですが、頭に五仏をつけた宝冠（五智宝冠といいますが）をかぶり、左手に如意宝珠又はそれを載せた蓮華（福德を表わします）を持ち、右手に剣（智慧を表わします）を持たれる一面二臂のお姿が一般的ですが、図のように異なるお姿もあります。

五智宝冠とは、密教の五智如来さまと関係があつて、まれには五大虚空蔵菩薩さまとして五身並べてお祀りすることもあります。

また、虚空蔵菩薩さまは「虚空蔵求聞持法」のご本尊としてお祀りされることもあります。この場合のお姿は、右手で与願の印を示し、左手に如意宝珠を載せた蓮華を持たされるのが普通です。（図1）

この虚空蔵求聞持法というのは、一度見たり、聞いたり、読んだりしたことは決して忘れることがなくなるという絶対的な記憶力を備えた、明晰な頭脳を得ることができるといふ修法です。

この修法は、弘法大師が行われたことで広く知られていますが、内容は五十日とか百日とか日を限って、虚空蔵菩薩さまのご真言（呪文）を百万回お唱えするとい



公益
社団法人

日本仏教婦人連盟 第14回総会開催

6月9日（火）11時より東京都台東区上野の東叡山寛永寺の書院にて第14回総会を開催いたしました。

司会の遠賀令子副理事長の開会のあいさつにて、初めに三帰依文を本多端子理事長の唱導に

て一同唱和、続いて事務局より、出席会員25名、委任状94通により総会成立の報告後、本多理事長からあいさつがありました。

まず、議長に花岡眞理子氏を選出、議事録署名名人に木田正子、末廣綾氏を選任し議案審議に入りました。

についての承認を議長より求められ、全会一致で原案通り決議されました。

続いて報告事項に移り

2026年度事業計画書は松井百合子氏及び収支予算書は海老塚るり子氏よりそれぞれ読み上げられました。

根本中堂の天井画の説明、そして徳川慶喜の蟄居の間の拝観等詳細にご案内していただきました。

最後に静岡県仏教婦人会山田裕子会長より一言ご挨拶をいただき散会となりました。

（事務局）

（事務局）

後日、お見舞金（15万円）は大聖院様にお送り致しました。



決議事項の議案第1号2025年度事業報告について承認を求める件は、湯浅正江氏より事業報告書が読み上げられました。

議案第2号

2025年度収支決算について承認を求める件は、海老塚るり子氏より議案資料に基づき2025年度収支決算について読み上げられた。高崎悦子監事より監査報告がなされ、質疑応答の後、議案第1号、第2号



田眞理副会長ご自坊の霊火堂火災の報告があり、出席者一同からお見舞金が集まりました。

以上をもって総会の審議を終了し12時30分議長が閉会を宣しました。

昼食後、寛永寺高橋和幸執事様から寛永寺の縁起等の講話や



総会に参加して

武田京子

総会終了後、寛永寺執事覚成院（かくじょういん）御住職より、御法話を頂いた。寛永寺は、江戸城の鬼門に九十歳近い天海大僧正が創建した。東の比叡山を意味する「東叡山」を寺号とし、現在には十九ヶ寺の子院も、当時は三十六ヶ寺もあった。本堂は



「根本中堂」で、家綱、吉宗含めた六人の将軍が埋葬されているが、儉約家の吉宗は宝刀のみを供したそう

だ。私は以前から将軍家に世継ぎ亡き後、徳川御三家筆頭の尾張から

思っていたが、家康公からみると、尾張藩主は四親等で、三親等の吉宗が将軍に選ばれたことを、ご住職のお話で私は初めて知った。天海大僧正は徳川家康を「東照大権現」という神号とし、二代将軍秀忠、三代将軍家光と三代に仕え、百八歳で没した。覚成院御住職の御法話は、私にとって大変興味深いお話であった。



そのあと「根本中堂」も拝見させていただいた。外陣から内陣に入ると、御本尊の周辺には十二神将が配置され、上を見ると阿吽の昇り龍と降り龍が天井一面に描かれていた。創建四百周年記念事業で奉納された東京藝術大学名誉教授手塚雄二画伯による「叡嶽双龍（えいがくそうりゅう）」である。皆一同、天井絵に圧倒されていた。昇り龍は、我々衆生の願いを聞き天に宝玉を取りに昇る姿である。「八方にらみ」の目に手には、御本尊「薬師瑠璃光如来」を表した青い梵字が浮かんでいる。降り龍は、願いを叶えるため、手に「如意宝珠」もって顕現した姿が描かれていた。

最後に、十五代将軍慶喜公が謹慎生活をされた貴重なお部屋まで拝見させていただいた。文武に秀でた水戸家七男の慶喜公は、一ツ橋家から打診されて当主となり、その後最後の征夷大将軍となった方だ。慶喜公の優しい絵、「誠をつくせば神をも感わすことができる」という書道額など、慶喜公のお人柄があらわれた沢山の興味深い品々が残っていた。私は寛永寺執事覚成院御住職に、心から感謝を申し上げたいと思っている。

合掌



京都

仏教セミナー

第137回
文化講座
5月28日(木)

5月28日(木)第137回文化講座『京都仏教セミナー』が総勢43名で、梅雨入り前の新緑の京都嵐山嵯峨野方面で挙行されました。

京都駅を出発、先ず臨済宗天龍寺派大本山天龍寺様へ、小川湫生宗務総長様よりお言葉たくみで丁寧なご案内によりご僧堂から八方睨みの雲龍図まで多岐に渡り拝観させていただきました。福田美術館で伊藤若冲画伯の名作を鑑賞後翠嵐ラグジュアリーホテル京都にて美味しい昼食をとり嵯峨釈迦堂清涼寺様へと、清涼寺様では今回特別に国宝生身の釈迦如来様と五臓六腑を拝ましていただき皆感無量でございました。

続いて旧嵯峨御所大本山大覚寺様では山川龍舟跡様より心温まるご法話を有り難く賜りました上、お茶まで頂戴いたしました。嵯峨天皇が離宮造営にあたって唐の洞庭湖を模して造られた大沢の

池の見事なことお天気に恵まれ自然を取り入れた造営のみごとに平安の雅に触れられたと感銘しきりでございました。

最後に200年以上伝統のある西陣鶴屋吉信本店茶寮にてお抹茶と和菓子頂き、京都駅にて解散いたしました。

まさに、身も心も充実感動の仏教セミナーでございました。

本多端子

1

天龍寺

雲龍図・
若冲の絵に魅せられて

吉村壽美子

五月の末に京都仏教セミナーに参加し、貴重な体験をしました。今回の旅程の前半部分について記



すことにします。

天龍寺は言わずと知れた臨済宗の大本山です。美しい曹源池庭園(そうげんちていえん)の景色に癒された後、宗務総長小川湫生様から禅寺の修行の様子を拝聴しました。私共の日常とは隔絶した厳しい精神世界を知り驚愕し、自分の生きている世界との隔たりに気分の落ち込みを感じたものの、小川総長の軽妙な語り口に救われる思いがしました。

天龍寺法堂天井の加山又造作の『雲龍図』は言葉を失う程の迫力を感じると共にその美しさに魅入られました。小川総長の言葉通り龍の眼に視点を止めたまま移動すると、龍の鋭い眼光がどこまで

も私を捉えて離しません。墨の濃淡のみで描かれた巨大な龍の「八方睨み」は解説を聞かなければ知り得なかったと思います。空間を圧倒するエネルギーに加

山又造の技量の凄まじさを感じずにはいられませんでした。曇天ながら心配していた雨も降らず、福田美術館に向かいました。ここではガラス越しにたくさんさんの伊藤若冲の絵を見ました。若冲といえは「鶏図」です。若冲は鶏を描くために、自宅の庭に数十羽の鶏を放し飼いにし、何年もひたすら観察し続けたと言います。その逸話が示すとおり、綿密な筆遣いで描かれた羽の一枚一枚には、一切の妥協を許さない狂気のなまでの執念を感じますが、美しい一言で表されます。自分をストイックに追い込んだ若冲という絵師は、熱心な仏教徒であり、相国寺(しょうこくじ)の禅僧と深く交流した人物です。先ほどの天龍寺

の龍が放つ威厳と若冲の鶏の気高さは、共に自己を極限まで追い込んだ者のみが表現でき得る極地と言えるでしょう。今回、このような素晴らしい体験が出来たことに感謝の念でいっぱいです。

2

清涼寺

清涼寺様にお参りして

逸見秀子

新緑の美しい日に、嵯峨釈迦堂として親しまれている清涼寺様をお訪ねしました。壮大な仁王門をくぐった後、ご本堂でご本尊釈迦



京都

福田美術館



翠嵐 ラグジュアリーコレクション
ホテル 京都にて昼食をいただきました



鶴屋吉信本店茶寮にて
お抹茶と和菓子を
楽しみました



「三国伝来の瑞像」を、千年以上の年月、歴代の清涼寺の皆様が戦禍や災害を経ながらもお護りされていらしたことを思うと、有り難さに涙がこぼれる思いでした。

清涼寺様でお会いした僧侶の皆様からは、千年以上の歴史をおこなうことなく、ひたすらお寺をお護りしていきたいと努めていらつしやる思いが伝わってきました。目の前に右往左往する私は、2、3年の物差しで日々動いてしましますが、お釈迦様がいらしたおよそ2550年前からのご縁を、次の世にも伝えていくことにご尽力されているように感じました。お寺に住まう者として、多くのことを気づかせていただき、頭のたれるおもいでした。

このたびこうした貴重な経験をさせていただけたのも、役員

3 大覚寺

大覚寺を訪ねて

村主みや子

令和8年のセミナーはお天気に恵まれ 旧嵯峨御所大本山大覚寺に伺いました。勅使門で鬼平犯科帳等の多くの時代劇の舞台になりましたとの説明に親しみを感じながら大覚寺管長親下からご挨拶の言葉をおいただいた後水尾天皇から下賜された寝殿造りの宸殿（しんでん）、御影堂、そして南北朝の靖和会議が行われたと伝わる正寝殿へ

の皆様による大変細やかなお心配りとご準備の賜です。お訪ねするお寺様に事前にお願いのお手紙をお送りした上で、詳しいご相談をされているそうです。そうしたこともあって、私たちは普段は拝見できない場所や詳しいご説明をいただける特別づくしのセミナーを楽しませていただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。

と進むにつれ、歴史を感じました。縦の柱を雨、直角に曲がる回廊を稲光にたとえた「村雨の廊下」は、美しい造形の中に天井が檜を振り上げられないよう低く設計されていること、廊下がうぐいす張りであることなどの説明を受けて時代背景を考えさせられました。美しさも機能性が調和した廊下でした。さらに、法隆寺の夢殿を模して再建された勅封心経殿（ちよくふうしんぎょうでん）、安井堂では天井いっぱい描かれた壮麗な雲龍が、今にも動き出しそうな迫力で迎えてくれました。宗教建築と芸術性が融合した空間で心安らぎました。

歩みを進めると視界が開け、心がふっと軽くなるような大沢の池の景色が広がりました。日本最古の庭湖と伝わる大沢の池の前で爽やかな風を感じながらみんなで写真撮影を楽しみました。秋この池に映つる中秋の名月に思いを馳せ、歴史・文化・自然が一体となった大覚寺で、建築や時代背景に触れさせていただきました。今回のセミナーは、忘れたくない素晴らしい機会となりました。



2024年1月1日に発生した能登半島地震から2年半が過ぎました。石川県内での犠牲者は721人となり、うち災害関連死は493人ののぼります。東日本大震災を除けば、今回の地震での災害関連死が多いことは特筆すべきことです。また、2024年は地震について、同年9月に発生した豪雨が被災地を襲い、再建への槌音を断ち切られ被災者に追い打ちをかけた。

今もなお被災地では、家屋や納屋の解体に伴う家財の搬出が続いています。作業系の活動も段々と落ち着いてきましたが、最近では肉体的・精神的にも体調を崩す方が多く見受けられます。2年半経つてようやくお店の再開を果たした人もいますが、再開後の様子を聞くと、人口流



出により働き手不足やお客さんの減少で、事業の継続、体力的・精神的にも厳しいという悲痛な声を聞き、手放しては喜べない状況です。また、この度の中東情勢により、ナフサ由来の資材が入ってこないなどの理由で建築費も高騰

今回、被災地NGO協働センターから応援要請を受けて能登に訪れた。私は、中島第一団地仮設住宅の集会所で、よく将棋やオセロが好きな住民の方々と時間を過ごしている。その中のお一人であるAさんは、いつも仮設住宅の中で仲良くされていたBさんが体調を崩され、付きっきりで病院までの送迎や、食事の準備から調理までしていたという。そのため、しばらく将棋を指す気力もなかったという。10日ぶりに盤を挟んだその日は、大きな声を上げて笑いながら、

駒を進めた。しかし、その笑顔の裏側には深刻な現実があった。睡眠薬を飲んでも1時間ほどしか眠れない。足はむくみ、CPAPをつけなければ無呼吸になってしまう。体を横にして寝ることができず、仮設住宅の狭さが体調悪化に拍車をかけていた。(中略)

能登の各市町村で方法や制度は異なるが、共通しているのは、一人ひとりの状況がまったく違うにもかかわらず、「平等」という名のもとに一律に並べようとする仕組みである。公平・平等は本来、人を守るための原則のほずである。だが時にそれは、弱い立場の人をさらに追い詰める「悪魔」にもなる。行政が個別対応に限界を抱えるのは理解できる。だからこそ、一人ひとりの声を聴き、寄り添い、隙間を埋める存在であるボランティアの役割が、いままさに問われている。

災害は、まだ終わっていない

能登半島の今 *Now*

2024年の地震・豪雨被害から修復が進む白米千枚田
※ 2025年7月撮影

被災地NGO協働センター
能登事務所代表

増島智子

震災から2年半。
石川県の犠牲者は721人、そのうち493人が「災害関連死」です。終わつたはずの災害が、今も人々の命を奪い続けています。一人ひとりの状況がまったく違うにもかかわらず、「平等」という名のもとに一律に並べようとする仕組みが、弱い立場の人をさらに追い詰めます。今、能登半島が置かれている現状をリポートします。

山村のレポートの最後には「ちなみに、ここまで読んでしまった方々は、もう『見て見ぬふり』はできないと思う。支援は一人ではできないし、変えることも一人ではできない。だから、読んでくださったあなたも、すでに私が勝手にながら巻き込んだ。半分冗談

低下、病気の発症など、これからの終の棲家をどうするかなど悩みは尽きません。毎回同じような問題が被災地で繰り返され、「教訓」を生かすという言葉だけが独り歩きしています。なぜ、いつも被災者にしわ寄せがいくのでしょうか？



私たちがすぐにでもできること

家族との食卓で、知人との会話の中で、「能登では、まだこんなことが続いているんだって」と、ただ話してみてください。あなたの言葉が、誰かの関心に火をつける。その連鎖が、被災地への支援につながっていきます。

まだまだ能登半島は支援を必要としていると思います。当連盟でもできる限りの支援をと考えております。皆さまのご協力をお願い致します。

ですが、Aさんの言葉を聞いた以上読んだ以上、一緒に悩みなから、できることを探していけたら心強い。」で結ばれています。災害を他人事ではなく自分事として捉え、ぜひ一緒に被災地を今後も応援してください！

もう見て見ぬふりはできない



帰る家がなくなって寂しい



もう一つ当センターのスタッフ島村の足湯レポートから被災者のつぶやきをご紹介します。

仮設住宅の暮らし

「帰る家がなくなったのは寂しい。畑が近くにないとね。車がないからなかなか大変。」(80代女性)

「自分とお母さんとお父さんと仮設住宅で住んでいるけど洗面所とトイレとお風呂が同

若い世代がいないので負担が大きい



頭痛がして体調が良くなかった。この仮設住宅の環境やと思う。」(40代男性)

若い世代と街づくり

「若い世代がいらないから負担が残ってる世代にかかりすぎる。頑張ってる地元に残ろうとしてるのに、しんどい。復興住宅でも自分が自治会長とかになるのかな。最近吐き気と

仮設住宅の暮らしが2年以上続いている今、生活に「慣れた」と話されていても、実際はその環境が少しずつ身体と心に影響し、体調を崩されている方々が多くいます。また、復興住宅へと住まいが変わるなかで、「取り残されている」と感じる方々、不安を共

有される方々もいました。私たちボランティアそれぞれがその声一つ一つをどう受け止め、出会った方に向き合うのかを問いかけられています。

二人のレポートからわかるように、現在被災地では目には見えにくい課題が多く、すぐに解決できる問題だけではなく残っています。住み慣れた自宅を離れ、コミュニティが崩壊し、畑や田んぼなどができなくなり、自宅までの移動など様々な環境の変化により、持病の悪化や認知機能の



この四年間、私は学業とアルバイトに全力で取り組みました。毎日、授業に真剣に向き合い、どんな教科でも手を抜かず努力を重ねました。その結果、学年トップの成績を収めることができました。アルバイトも四年間続け、朝早く起きて仕事に行き、その後学校へ通う毎日は本当に大変でした。何度もくじけそうになりましたが、その度に「支えてくださっている方がいる」という思いが、私を前に進ませてくれました。この経験を通じて、時間の使い方や生き方について深く学ぶことができました。

そして今、食品製造関係の企業から内定をいただき、社会人としての第一歩を踏み出そうと

しています。ここまで来られたのは、サポーター様のご支援があったからです。毎月いただいたご支援は、通学の定期代や学校の経費に充てさせていただき、安心して学業に集中できる環境を整えることができました。また、自動車免許の取得にも奨学金を使用しました。就職先の条件に免許が必要だったため、スムーズに取得できたのも、サポーター様のおかげです。免許代が高騰している中、本当に助かりました。

こうして今、卒業と就職という大きな節目を迎えられるのは、サポーター様の温かいご支援のおかげです。心からありがとうございます。

高校生活の中で、サポーター様からいただいた奨学金は大きな支えでした。経済的な不安を抱えることなく学業に集中出来たことで、学びに前向きに取り組むことが出来ました。参考書を買ったり、進路を考えるための説明会や活動に参加したりすることが出来たのも、サポーター様のご支援があったからです。また、「自分の未来を応援してくれている人がいる」という気持ちは、私にとって心の支えになりました。辛い時や迷った時には、その思いが私を励まし、前に進ませてくれました。サポーター様のご支援は単なる金銭的なものではなく、私の挑戦を後押しして下さる温かい励ましだったと心から感じています。

卒業後、私は経済学について学びたいと考えています。経済や社会の仕組みを学び、人や、域の生活がどのように支えられているのかを深く理解したいと思います。特に格差や貧困地域の課題について学び、なぜそのような問題が生まれるのか、どのように改善できるのかを考え

ていきたいです。また、数字やデータをもとに社会を分析する力も身につけたいと考えています。新しい環境に不安もありますが、高校で培った努力する姿勢や仲間を大切にすることを胸に日々真剣に学んでいたいと思います。

私の将来の夢は、公務員、特に県職員になることです。県職員として、教育、福祉、地域振興、防災、産業支援など県民の生活を幅広く支える仕事に携わりたいと考えています。私はこれまで多くの方に支えられてきたからこそ、「支えられる側」から「支える側」になりたいという思いが強くあります。経済学で学んだ知識を生かし、データや現状を正しく理解したうえで誰にとっても暮らしやすい地域づくりに貢献したいです。

サポーター様に心から感謝申し上げます。サポーター様のご支援に恥じないよう、これからも学び続け、成長していきます、本当にありがとうございました。

あおぞら奨学基金



皆様のあたたかいご支援が

こんなにも役立っています！

東日本大震災から早15年が過ぎました。当連盟では年間6名の高校生を支援しております。

これまでに34名の生徒が卒業し、それぞれに成長していることと思います。

令和6(2024)年度より、能登半島地震で被災し支援を必要とされている生徒も対象としています。

子どもたちが、未来に向けた一步を踏み出せますよう一人の高校生1年12万円(1か月1万円)の

学習支援です。皆様のご協力をお願いいたします。

これまで支援し、卒業された3名の生徒のお礼の便りを紹介いたします。

これまでたくさんのご支援ありがとうございました。

ご支援のおかげで、変わらず楽しい学校生活を送り、進路も実現することができました。

2年前の能登半島地震での大きな揺れによって、日常が非日常へと変わり、あたり前だと思っていたことが当然のものではなかったと気付かされました。

また、揺れが起きるついさっきまではいつも通りのお正月だったのが、家の周りは見慣れない場所になり、物で足の踏み場もなくなり、不安でいっぱいでした。これから、どうなるかもどうすればいいかも想像がつきませんでした。そのような状況の中で、奨学金という形で支援していただけることになり、とても嬉しかったです。経済的な安心だけでなく、学校生活に対する心の支えになりました。



私は、学校生活の中で部活動の時間がとても好きでした。私が所属していた書道部では震災を受けてすぐに、町の役場に掲示するための作品を制作することになりました。日常が変化して、何も受け止められない中で、見慣れた顔が集まって、字を書く時間は、私の居場所になりました。その後の部活動では、全国各地でのパフォーマンスをする機会が増えました。全国各地をとびまわる際には、経済的な面での不安もありましたが、ご支援のおかげで、好きなことを精一杯楽しむことができました。

そして、昨年には幼い頃からあこがれていた保育士になるための大学に進学することが決まりました。たくさんの不安がある中でも自分の夢と向き合って頑張ることができました。

過疎化が進んだ上に地震の影響で町の人口が大幅に減少、さらに将来子どもが少なくなるといわれています。それでも私が幼い頃に、保育園の先生にあこがれたように、子どもたちからあこがられる保育士、さらに、保護者から信頼してもらえるような教育者を目指します。

花の種運動

今年も春に花の種を皆様にお届けいたしました。各方面から花の種を配った際の感想や、花が咲いたという嬉しいご報告をいただきました。皆さまの声は私たちにとって大変励みになります。ありがとうございました。

神戸妙昌寺 村井惇匡

小寺では「人に皆、美しき種あり」をスローガンに年中行事を開催しています。4月8日のご聖日に近い日曜日に毎年「春まつり」を営み、幅広い年齢層の方、地域の方々が集います。人の心、身近な所に「仏種」が播種育成、開花できる誠に尊く、有り難いプレゼントになります。ありがとうございます。



静岡県仏教婦人会の山田会長のお母さまが綺麗に咲かせてくださいました。



須藤石材株式会社 櫻川雄二

① 年配男性

「毎年、ひまわりを植えているので嬉しい。亡くなった妻がガーデニングをしていて、それからは手付かずの状態だったけど、これを機に妻を想いながらやってみます。」

② 60代夫婦

「森林破壊が進む中、素晴らしい取り組みですね。ありがとうございます。たく頂戴します。」

③ 40代夫婦と子供

夫婦「本当にいいんですか、ありがとうございます。子供と一緒に育てます。」

子供「ひまわり大好き！」

④ ご夫婦で来店された奥様

「自宅の庭で花を育てております。こちらも喜んで植えさせてもらいます。」

⑤ ご家族で来店されたご主人

「土いじりをして、花の香りを嗅いだり、色々な色を見るとボケ防止になるんだ、どうもありがとう。」

⑥ ご家族で来店された奥様

「花はいいのよ。室内でも育てられるし、季節感も感じられるし。ありがとう。」

⑦ 男性

「子どもたちへの活動をされているのですね。庭や玄関前に花をよく植えています、種から育てるのは初めてかもしれません。咲くのを楽しみにやってみます。」

【その他・・・実際に配布した担当者の声】

いつもは供花や線香を販売しているところが、お花の話をするると年齢の高い方ほど興味を持たれ、植物を育てる・見る・香ることの良さを話していただけました。また、お話しされる方の表情は皆さん柔らかく、非常に距離の近い接客をすることができました。

写経

のお願い

まだ足りません！

あと450巻。

あなたの祈りが、ブッダガヤに届きます。

当連盟は毎年インド・ブッダガヤの「インド山日本寺」の宝篋印塔（ほうきょういんとう）に500巻納めることを目標にして活動しております。この写経運動は当連盟発足当初からの継続事業です。お納めいただいた奉納金は日本寺境内にあります光明施療院において、ブッダガヤ地区の子供たちの健康の維持、回復、促進などを目的とした無料の医療福祉活動の運営に活用させていただいております。今年度は12月にインドに納経してまいります。今現在50巻ほどしか事務所に届いておりません。あと450巻、是非とも皆様にご協力をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

般若心経
舍利礼文
十句観音経

写経用紙は右記の三種類を用意しております。今回全員に写経用紙（般若心経）をお送りいたしますので、10月末日までに納経をお願いいたします。

お写経はインド・ブッダガヤの「インド山日本寺」の宝篋印塔にお納めします。奉納金は一卷につき般若心経1000円、舍利礼文・十句観音経各500円をお願いいたします。



4月23日に菩提樹学園全国児（年少・年長組）を対象に健康診断を実施いたしました。

お写経の効果

1. 指先を使うことで、脳を活性化させることができます
2. 姿勢がよくなり、心と体が落ち着いてきます
3. 自然の治癒力が向上します
4. 集中力と忍耐力がついてきます
5. 字が上手になります
6. イライラを解消し、疲労回復がはかれます
7. 心が清浄になり、安心の境地が得られます

（公社）全日本仏教婦人連盟

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-5-10-205

TEL 03-5772-0677 FAX 03-6434-0184 MAIL info@jbwf.jp



<http://www.jbwf.jp>

へえ!
そうなんだ

生活の中の仏教用語

億劫

【おっくう】

歳をとると、チョッと身体を動かすことも億劫になる。歳をとらなくても、何事につけ億劫がる若者がふえている。すべてが便利になって、座っているだけで何でも用が足りるようになったためであろうか。

ところで、億劫とは、本来「おっこう」と読み、億の単位の劫という意味である。「劫」とは時間を表わす単位を指す。では、一劫とはどのくらいの時間の長さを指すのであろうか。経典の説くところでは、一辺が一由旬（ゆじゅん）の（約七キロメートル）の大きな岩があり、百年に一度天人が舞い降りて来て、その衣の裾が岩に触れる。それによって岩が磨り減る。そのようにして岩が完全に磨滅して、跡かたもなくなったときに「一劫」であるという。なんたる長さ！なんたる想像力！天文学的年数というより、もはや神話的年数である。さ

すがインド人といいたい。ホラフキ男爵など足元にも及ばない。しかも、その一劫の一億倍集まったものが「億劫」というのである。十年も寝たきりの婆さんが、ハダシでかけ出したくなる年数である。アッパレ、インド人、もっとやれと思わず叫びたくなる。

この驚異的時間の長さを聞いたとき、正常な神経の持ち主であれば一様に気が遠くなり、のどは渇き、目の前の些細な仕事などどうでもよくなる。つまり、すべてが面倒くさくなり、あほらしくなって何もする気がなくなる。それじゃ寝てましようかということになる。これがまさに億劫（おっくう）の意味するところとなったわけだ。まさに理の当然といえる。

それにしても、ウメぼしでお茶漬けサラサラの国民とは、考えるスケールが違う。インド人が街中でゴロゴロ寝ているのは、単に暑いためだけであろうか。

畫間玄明著『生活のなかの仏教語』
(1995年3月、すずき出版刊)より

information

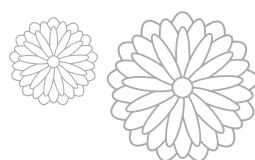
第73回全日本仏教婦人連盟大会

日時：令和8年10月21日（水）11時～
会場：東京プリンスホテル
「サンフラワーホール」

第38回成道会の集い

日時：令和8年12月1日（火）13時～
会場：有楽町マリオン朝日ホール

ご冥福をお祈りいたします
令和8年4月19日
井桁雄弘師
(大阪府佛教会元会長)
令和8年5月29日
南澤道人師(賛助会員)



仏婦 NEWS抄

私たちの
日々のあゆみ
2026年4月～6月

4月

April

3日 花まつり法要（雑司ヶ谷
鬼子母神堂）

8日 京都仏教会花まつり
（ANAクラウンプラザホ
テル京都）

10日 「沙羅の樹」23号発行

5月

May

12日 監査会（事務局）

第40回理事会（代々木会議
室）

19日 （公財）全日本仏教会第51
回理事会（オンライン会議）

26日 仏法興隆花まつり千僧法要
（奈良・東大寺）

22日 故木邊美追悼法要参列（真宗
本辺派本山錦織寺御影堂）

26日 （公財）国際仏教興隆協会
第43回理事会（オンライン
会議）

28日

第137回文化講座（天龍
寺、清涼寺、大覚寺）

6月

June

9日

第14回総会（天台宗東叡
山寛永寺）

12日 （公財）全日本仏教会理事
会（明照会館）懇親会（東
京プリンスホテル）

16日 編集会議（事務局）

21日 （公財）国際仏教興隆協会
評議員選定委員会・第19
回評議員会（会議室）

21日 井上日修猗下日蓮宗管長・
立正大学学園総裁就任祝
賀会（グランドプリンスホテル
新高輪）

22日 （公財）日本宗教連盟創立八十
周年記念式典（東京オリシビック
記念青少年総合センター）

29日 村山博雅師世界仏教徒青
年連盟会長退任慰労会（ホ
テル日航大阪）

7月

July

10日 「全佛婦」143号発行

事務局 だより



全日仏婦事業に多くの方々よりご協力いただきありがとうございます。それぞれの事業に活用させていただきますので、どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。
(順不同・敬称略6月26日現在)

▼新会員ご紹介

竹内美加 今野良子 荒川富佐江
▼賛助金にご協力の方々

曹洞宗 浄土宗 真言宗豊山派
念法眞教 浄土真宗東本願寺派
天台宗 日蓮宗 真言宗須磨寺派
真言宗大覚寺派 真宗本辺派
法華宗陣門流 総本山知恩院
妙法院門跡 青蓮院門跡
三千院門跡 圓照寺門跡
大本山川崎大師平間寺
大本山高尾山薬王院
高幡不動尊金剛寺 大本山護国寺
聖観音宗浅草寺 大本山増上寺
大本山善光寺大本願
大本山總持寺 大雄山最乗寺

本山大坊本行寺 孝道教団

天王寺 總持寺 妙清寺 慈眼寺

梅窓院 大須観音寶生院 回向院

光明院 妙慶院 正覚院 長専院

傳通院 竹林寺 満願寺 淨眞寺

東園寺 清岸寺 高岩寺 妙安寺

如宝寺 西新井大師總持寺

願龍寺 勝榮寺 廣善寺 壽本寺

築地本願寺 深大寺

(公財) 国際仏教興隆協会

(公財) 仏教伝道協会

(二財) 京都仏教会

弁護士柴田龍太郎

大和証券株式会社

須藤石材株式会社

▼ご芳志を頂きました方々

本多端子 米田陽子 木田正子

桶屋良法 山澤節子 木村匡成

柴田龍太郎

▼社会福祉基金にご協力の方々

末廣久美 桶屋良法 村主みや子

▼写経運動にご協力の方々

村主みや子 村上和之 末廣綾

藏澤弥生 海老名初江

▼花の種運動にご協力の方

村主みや子 大塚哲子

発行人 本多端子
編集人 日比野郁皓・
山口偉理子・
末廣綾
編集 合同会社まに
デザイン